【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】平成16年8月26日(2004.8.26)

【公開番号】特開2002-201255(P2002-201255A)
【公開日】平成14年7月19日(2002.7.19)
【出願番号】特願2000-400013(P2000-400013)
【国際特許分類第７版】
　Ｃ０８Ｇ　59/04
　Ｃ０８Ｇ　59/24
【ＦＩ】
　Ｃ０８Ｇ　59/04
　Ｃ０８Ｇ　59/24

【手続補正書】
【提出日】平成15年8月11日(2003.8.11)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
４，４’－ジヒドロキシ－３，３’，５，５’－テトラメチルビフェニルとエピハロヒドリンとから誘導されたエポキシ樹脂の結晶化物であって、ＤＳＣ装置を用いて毎分１０℃の速度で昇温して測定した５０℃から１３０℃の間の吸熱量と８０℃から１２５℃の間の吸熱量との比が１．０３以上であることを特徴とするエポキシ樹脂結晶化物。
【請求項２】
ＤＳＣ装置を用いて毎分１０℃の速度で昇温して測定した５０℃から１３０℃の間の吸熱量と８０℃から１２５℃の間の吸熱量との比が１．０５以上、１．５０以下であり、吸熱のピーク温度が１１０℃以下であることを特徴とする請求項１記載のエポキシ樹脂結晶化物。
【請求項３】
エポキシ当量が１８０から２１０である４，４’－ジヒドロキシ－３，３’，５，５’－テトラメチルビフェニルとエピハロヒドリンとから誘導されたエポキシ樹脂を１０５℃以上の溶融状態から冷却し、１０５℃より低い温度になってから２時間以内にほぼ完全に結晶化させることを特徴とする、ＤＳＣ装置を用いて毎分１０℃の速度で昇温して測定した５０℃から１３０℃の間の吸熱量と８０℃から１２５℃の間の吸熱量との比が１．０３以上であるエポキシ樹脂結晶化物の製造方法。
【請求項４】
前記ＤＳＣ装置を用いて毎分１０℃の速度で昇温して測定した５０℃から１３０℃の間の吸熱量と８０℃から１２５℃の間の吸熱量との比が１．０５以上、１．５０以下であり、吸熱のピーク温度が１１０℃以下であることを特徴とする請求項３記載のエポキシ樹脂結晶化物の製造方法。
【請求項５】
前記溶融状態のエポキシ樹脂を１０５℃以上の溶融状態から冷却し、１０５℃より低い温度になってから２時間以内にほぼ完全に結晶化させる方法が、１０５℃より低い温度で結晶核を加える方法及び剪断力を加える方法のいずれか一方もしくは両方の方法で結晶化させる方法であることを特徴とする請求項３又は４に記載のエポキシ樹脂結晶化物の製造方法。

【請求項６】
請求項１及び請求項２のいずれか１項に記載のエポキシ樹脂結晶化物とエポキシ樹脂用硬化剤を必須成分として配合して成る硬化性エポキシ樹脂組成物。
【請求項７】
請求項６記載の硬化性エポキシ樹脂組成物を硬化して得られる硬化物。